

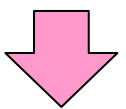
提案17 世界一美しい「水と緑の都市」の創造

1. 提案の概要

都市の雨水浸透機能と緑被率を100年前に戻し、健全な緑の再生、ノンポイントソースの徹底的収集・処理により世界一美しい、「水と緑の都市」を創造

昔の江戸

- ・清潔な市街地
- ・雨水の浸透による湧水等豊かな水空間
- ・武家屋敷(60%)、社寺(20%)を有し高い緑被率



将来の「水と緑の都市」

これら江戸のまちの長所をとりいれた世界一美しい「水と緑の都市」の実現



浸透機能の向上

緑被率の向上

ノンポイント対策

汚泥



2. 提案の背景

江戸時代

美しい日本。その原点は、水と緑に代表される日本の箱庭的風景と都市と農村が連携した尿の循環利用による生活空間からの排除。

「街路は清潔にして何人もこれを踏まずと思はる程なり。」

日本に漂着した元スペイン総督
ドン・ロドリゴ・デ・ビベロ 『日本見聞録』

「旧市街は、私が今まで見た町の中で最も整然として清潔であり、最も居心地の良さそうな町である。」

「川水がしだれ柳の間を通り、運河を気持ちよいものにしてくれる。」

明治初期の美しい日本を訪れた英国人女性旅行家
イザベラ・バード 『日本奥地紀行』



『新潟の道と堀』イザベラ・バードが「運河」と呼んだ
当時の堀のスケッチ

戦後のわが国の都市

高度経済成長の結果、わが国の都市から水と緑が喪失。

その結果、都市の魅力が低下するとともに、生活し働く環境が悪化。

3. 提案の内容

・21世紀のわが国の都市

観光立国にふさわしい魅力ある都市

物質的な豊かさから心の豊かさを満たすうるおいのある都市

循環型のシステムが確立した都市



水と緑のあふれる世界一美しい都市づくり

・実現のための方向

➤都市の雨水浸透機能を100年前に戻す。

都市内の河川の流量を確保。憩いの空間を創出。

➤都市の緑被率を100年前に戻す。

うるおいややすらぎをもたらすほか、景観としての都市の魅力も向上。

➤ポイントソースの処理に加え、ノンポイントソースの徹底的収集、処理を実施。

都市内の河川の水質の向上。

➤下水汚泥等の緑農地還元を図る。

循環型社会の構築。

4. 提案の効果

- 世界一美しい都市は、対外的には観光人口の増加をもたらすほか、日本のイメージの向上をもたらす。(ベネチア、パリ等)
- 内部的には、憩いの場の提供。都市の魅力の向上による居住空間の質の向上。

5. 実現のための方策

- 事業所や住宅における雨水浸透施設設置の誘導、公共空地の活用。
 - ・ 土地の浸透機能に応じて事業所や住宅の固定資産税を区別。
 - ・ 道路等の公共空地については、一定以上の浸透機能の義務付け。
 - ・ 雨天時には道路・公園等公共空地の一部を雨水貯留施設として活用。
- 空地や建築物の緑化の推進。
 - ・ 下水処理場、ポンプ場も含めた公共施設の緑化の義務付け。
- ノンポイントソースの徹底的収集、処理を実施。
 - ・ 都市において、道路、住宅等ごとに面積及び面積あたりの流出汚濁負荷量を勘案して土地の所有者が基金を拠出、基金をノンポイントソース対策施設の整備・管理費に充当する仕組みを創設。
 - ・ 田畑については、面積の一定割合に葦等の自然浄化植物の設置の誘導・義務付け。葦等の処分(焼却・コンポスト化等)にあたっては下水道の施設を活用。